
哀のかるた

白波

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

哀のかるた

【Nコード】

N0516W

【作者名】

白波

【あらすじ】

「遠い町へ」の話の中で登場したかるたの完全版です。「遠い町へ」を読んでからお読みになった方がわかりやすいかと思います。

ア行

頭がいい光彦君

光彦「いやーうれしいですねー灰原さんにこんな風に行ってもらえるとは！」

哀「あら…これは阿笠博士が書いたものよ…ついでに言つと吉田さんのと小嶋君のも…」

光彦「そうなんですか！」

哀「ええ…。」

光彦「それじゃあ灰原さんならどう描くんですか？」

哀「そうね…歩く死神江戸川コナンってところかしら…」

コナン「おい！」

哀「いたの…。」

コナン「いたのじゃねーよ！」

哀「とりあえず次行くわ…。」

コナン「待てよ！」

いつもかわいい歩美ちゃん

歩美「うれしいけど、これも阿笠博士が書いたのよね…」

哀「ええ…そうよ…でも、吉田さんは探偵団のマスコミ的な立場だと思っわ…。」

歩美「ありがとう！哀ちゃん！」

哀「でも、ここはやっぱり、いい加減にしろ江戸川コナンがいいかしら…。」

コナン「どうゆう意味だよ！」

哀「だってどこに行っても事件に巻き込まれるじゃない…」

コナン「あのな…。」

哀「次行くわ…。」

ウナギ大好き元太君

哀「これはスルーでいいわね…次！」

元太「おい！待てよ灰原！」

哀「なに…小嶋君…。」

元太「何じゃなくて何かしやべらせてくれよ！」

哀「今しゃべったから次ね。」

コナン「おいおい…。」

哀「次は本編には登場してないわね…。」

選べない事件との遭遇タイミング

コナン「確かにその通りだな…事件はいつどこで起きるかわからないから…。」

哀「まっ、あなたといればどこに行っても遭遇するんでしょうけど…日本で起きる事件の何%かはあなたの周りで起こっていると思うわ…。」

コナン「おめーいい加減にしろよ！」

哀「何か間違ったこと言った？」

コナン「言ってません…。」

哀「次でア行は最後よ…。」

おとぼけ得意な毛利探偵

小五郎「おとぼけ得意とはなんだ！」

蘭「ちよつと…お父さん…でも、哀ちゃんもこれはないんじゃない？お父さんあれでも一生懸命やってるんだから…それに眠った時だけはちゃんと事件解決してるじゃない…。」

哀「江戸川君に眠らされた時だけね…。」

蘭「哀ちゃん今なんて言ったの？」

哀「こつちの話よ…とにかくこれでア行は終わりよ…。」

ア行（後書き）

読んでいただきありがとうございます。

この作品の投稿は不定期になると思います。

念のために言っておきますが、ひどい言われようをしている人が嫌いとかなんか事はありません。

これからよろしくお願いします。

力行

陰でメタボる阿笠博士

阿笠「何を言うんじゃ！」

哀「あながち間違っていないでしょ…。」

阿笠「わしとて、最近は…」

哀「それじゃあ台所に隠してあったこのから揚げ弁当の空箱は何？」

阿笠「それは…」

哀「後でじっくり話を聞きましょうか…まっどちらにしる今日はお肉にしようとしたけどやっぱりやめね…次行くわ…」

気楽な金持ち鈴木園子

園子「気楽なつて…」

哀「間違っていないでしょ。」

園子「私は推理クイーンの鈴木園子様よ！気楽だなんて…」

哀「それを除けば間違っていないでしょ…」

コナン「確かにな…」

哀「その推理も江戸川君がしたものだけど…」

園子「なんか言った？オチビちゃんたち…」

哀「何でもないわ…次行きましょう…」

苦勞して事件解決毛利の手柄

コナン「確かにそうなんだよな…手柄はほとんどオッチャンのものだからな…」

小五郎「なーはっはっはっは！俺にかかれば事件の解決などたやすいぜ！」

哀「寝ているだけで手柄が建てられてうらやましい限りね…」

コナン「ほんとだよ…本来なら俺に手柄なのに…」

小五郎「何か言ったか？」

哀・コナン「何でもないわ（ないよ）」

哀「次行くわ…。」

刑事より犯人顔の大和警部

大和「なんだと！」

上原「まあ勘ちゃん抑えて…。」

哀「もともとは顔が怖い大和警部だったんだけど阿笠博士のとかぶったから…。」

大和「あつ！お前は死亡の館の時に俺を誘拐犯呼ばわりした！」

哀「正確に言うと事件の解決を依頼するために毛利探偵のところに
行く時だけどね…。」

大和「どっちにしろ…。」

上原「もう勘ちゃん！」

哀「とりあえず次行くわ…。」

コナンも歩けば事件にあたる

コナン「おめーな…。」

哀「私、何か間違ったこと言っただ？」

コナン「言ってますん。」

平次「工藤！なかなかの言われようやないか！」

コナン「服部！？」

歩美「なんで平次お兄さんコナン君のこと工藤って呼んだの？」

平次「そっ…それはやなー。」

哀「話がそれたからこのへんにするわ…次回はもちろんサ行よ…。」

力行（後書き）

読んでいただきありがとうございます。

これからもよろしくお願いします。

サ行

サンゴ頭の横溝刑事

横溝「なんてことを…」

哀「サンゴ頭だし、名前も参悟でしょ…。」

横溝「確かにそうですね！」

哀「いつそのことサンゴ頭なのに金槌横溝刑事でもよかったのよ…。」

「

横溝「いや…それは…。」

哀「事実でしょ。」

横溝「はい…。」

哀「さてと、次はあの二人ね…。」

死ぬほど鈍感平次と新一

平次「ちよー待ち！どーゆーこっちゃ！」

コナン「そうだぞ！平次はともかく俺な…」

平次「なんやと！そんなことゆーたらお前だつて！」

哀「はいはい…その辺にしときなさい…どっちもどっちなんだから

…終わりそうもないから次行こうかしら…。」

澄子職場でも恋愛優先

小林「澄子じゃなくて小林先生って呼びなさい！それにこの内容…」

哀「こはコナンも歩けば事件にあたるで使っちゃたのよ…それにい

つだったかウサギ小屋の掃除が終わったっていくら言っても白鳥警

部との電話に夢中で気づかなかったじゃない…。」

小林「それは…その…。」

哀「それはそうと白鳥警部とはあの後どこまで行つたの？」

小林「どういうこと？」

哀「だから…どのくらいまで行つたか気になるって言うてるの…。」

小林「それは…その…」

哀「まあいいわ…ともかく次行くわよ…」

世界一強い蘭

蘭「あの…哀ちゃん…これはほめ言葉として受け取っていいのかな？」

哀「ええ…まあ…」

コナン「確かに蘭お姉ちゃんはとっても強いもんね！」

園子「ちよつと待ちなさいよ！蘭は確か**強いけど**世界一は言いすぎじゃない？」

蘭「確かにね…」

園子「そうよ！世界一強いっていったら真さんに決まってるじゃない！」

コナン「はは…やっぱりな…」

園子「あんたもそう思ってたの？」

コナン「そういうわけじゃないけど…その…」

哀「次行くわよ…」

園子「ちよつと待ちなさいよ！」

哀「いつまでもあなたに付き合っているわけにもいかないし…」

園子「今なんて言ったの？」

哀「何でもないわ…改めて次行くわよ…」

そろそろ結婚？高木と佐藤

高木「ちよつと何言ってるんですか！」

哀「間違ってるの？」

高木「いえ…あの…その…僕はですね…」

佐藤「高木君！そんなところで何してるの？毛利さんに頼まれた資料探してるんでしょ？」

哀「また、江戸川君のパシリやってるのね…」

高木「何か言ったかい？」

哀「何でもないわ……次回は夕行よ……次回もよろしくね……」

サ行（後書き）

読んでいただきありがとうございます。

これからもよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0516w/>

哀のかるた

2011年10月9日07時42分発行